

宮崎大電社長 仲裁を断る

5.14
 國粹會幹部連と
 樋口氏宅に於ける會見

多門閣下、樋口氏宅に集
 國粹會大電支部の幹部連
 の質問に對し、女愛會大電支部
 の西尾未次郎氏は今日までの罷業
 論及び女愛會と感業社との
 關係に就きて述べ、最
 後に諸君は労働者の味方にな
 られたらと希望し、女愛會の
 主張する所は國粹會幹部連と
 協定を出さざる事の一箇條を
 譲らざるを答へた。斯くて
 午後一時西尾氏は一應取り
 去後、國粹會の幹部連は一団
 打ち退る

書食を 喫した後、諸
 君を以て宮崎電業社長に來談を
 求め、三時五十分宮崎社長は自
 動車を驅り、後藤橋頭長を帶
 同して樋口氏宅に來着、直ちに
 三層の一室に入り、樋口氏及び
 國粹會幹部連と會見した。國粹會
 が仲裁の勞を執らんとする
意圖に 對し、宮崎社長
 は、諸君の好意は是れ多とする
 も、會社は女愛會により、代表
 する、罷業職工と交渉する好意
 あり、女愛會の運動は労働金を

警察攻撃に變つた

市民殿の大電争議批判演説會
 自轉車の寄贈に大拍手

十二日午後六時より九條中道
 市民殿に於ける大電争議批判演説會
 は相不續演説で約五百人の入場
 者があつた。演士は何れも五分
 乃至十分を演説し、演者連
攻撃で 時は火の出
 る様な言葉に三回連々噴つ
 て、何うやら問題は女電にあら
 して警察多岐ぶ如き形になり、
 何となく不氣味な感じを興へた。
 演士中には樋口から來た人も
 三、四名あつたが、樋口氏は日本共
 産黨に於ける大電争議批判演説會
 目的の教育まで來てゐながら、
 樋口の市民殿には姿を露さず、西
 尾が女愛會主席と登壇し、語らなかつ
 たの筈であつた。

演説の 合前に外部か
 ら奇れた演説の文書や、演説金を
 送來した中に春日日出支部の員、
 谷本氏から自轉車一臺の寄贈は
 二、三輛、熱烈なる拍手で迎へた。

罷業破りを大警戒

友愛會が必死の
 各所の演説會に氣勢をわく

大電罷業職工の労働争議が双
 方共に持久戦を繼續してゐるこ
 ろは、罷報の如くであるが、十三日
 朝現在の女電復職職工は、女愛會
 發議所で百廿二名春日日出發電所
 で二百廿七名に達してゐる又罷
 業職工側は、女愛會支部に罷業本
 部名寄き女白川春日日出所支部か
 ら盛に寄附を出して罷業職工を
 訪問し、罷破りを警戒し、又夜は
 都府門各方面にも演説會を開
 する等、女愛會員奮往中

大電罷業の仲裁人は
結局警察部長か
 國粹會の調停はお役に立す

直接なら又話もしようが、女愛會なら御免だと

宮崎大電社長キツバリ別れる
 樋口氏宅に於ける會見の幕

樋口國粹會に呼ばれた宮崎大電
 十二日午前國粹會副委員長
 樋口伊之助氏と樋口氏
 初め國粹會の山本、小島、渡邊、
 花野などの各幹部連中と女愛會
 會所へ來談し、會見の結果、
 國粹會では、女愛會側の女の
 には、何れも五分
 乃至十分を演説し、演者連
 攻撃で 時は火の出
 る様な言葉に三回連々噴つ
 て、何うやら問題は女電にあら
 して警察多岐ぶ如き形になり、
 何となく不氣味な感じを興へた。
 演士中には樋口から來た人も
 三、四名あつたが、樋口氏は日本共
 産黨に於ける大電争議批判演説會
 目的の教育まで來てゐながら、
 樋口の市民殿には姿を露さず、西
 尾が女愛會主席と登壇し、語らなかつ
 たの筈であつた。

樋口氏と宮崎氏との會見を爲す筈で、夫れ以後で
 は何事も交渉せず所がある。無しも國粹會の起すも未だ不
 つた同家、後藤橋頭長は、府明であるが、要するに罷工細か
 警察部に加々美特務部長は、方明であるが、要するに罷工細か
 する所があつた。一方樋口氏、女愛會の手を離るれば、樋口氏
 は、更に十三日午前、個人が仲裁役となり、何事かの
 安協點を見出さうといふので、
 西尾氏に就いて、宮崎氏を再度は無からるか
 一方、午後一時半には、
島徳藏 氏も來つて、協
 定を續けてゐる一方、女愛會の西
 大電支部長春日日出支部長藤
 神戶支部長の三浦は、加々美特
 務部長の官舎に、前掛けて、部長官
 の協定の終りのを待つてゐる
 加々美特務部長が調停の勞を執
 るのは、無からるか

田中部長は
取次位なら
 するこの事だ
西尾支部長談
 西尾女愛會大電支部長は、諸
 君から加々美特務部長に面會
 するので、今では別段これと云
 ふ難い、耳障りありません、然
 部長は、細慢し出來ない、此際